

TGR TEAM ZENT CERUMO

2022 AUTOBACS SUPER GT Report

SUGO GT 300km RACE

第6戦 スポーツランド SUGO

ZENT CERUMO GR Supra

#38 立川祐路／石浦宏明

◆9月18日（日） RACE

決勝結果 4位

フロントロウとなる予選2番手と、今季最高位となるグリッドにつけ、セットアップの好感触とともに明るい雰囲気の中予選日を終えた TGR TEAM ZENT CERUMO。迎えた9月18日（日）の決勝日、スポーツランドSUGOは朝から雲が厚く、決勝レースに向けたウォームアップ走行でも感触は良く、ほとんどセットアップをいじらずウォームアップを終えたが、その直後からサーキットには細かな雨粒がパラパラと舞った。



迎えた決勝レース。ZENT CERUMO GR Supra のスタートドライバーを務めたのは立川祐路だ。1周のパレードラップ、さらに1周のフォーメーションラップを終えて切られたスタート直後、いきなり立川が魅せる。4コーナー進入の一瞬のスキを見逃さず、わずかに接触しながらもポールポジションスタートの#19 GR Supra のインを突き、オープニングラップでトップに浮上した。



直後、GT300 車両のクラッシュでセーフティカーが導入されるが、4周目のリスタート後も立川はペースが良く、10周が近づく頃には GT300 クラスの集団が眼前に近づくも、冷静に一台ずつかわしていき、後続とのギャップを広げていく。後半、もし何

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

かが起きてても十分なマージンができるようギャップを築きにかかったが、その頃、スポーツランド SUGO にはまたも雨が舞いはじめた。

スタート直前の雨は路面を濡らすほどではなかったが、13 周を過ぎると雨量が増え、みるみるうちにウェットコンディションに転じていく。立川も状況を確認しながら、ウェットタイヤへの交換を判断。16 周目に ZENT CERUMO GR Supra はピットインし、素早い作業でウェットを履くと、ふたたび立川を送り出した。



GT500 クラスではライバルたちもほとんどがピットインし、ふたたび ZENT CERUMO GR Supra はトップに返り咲いていくことになるが、20 周を過ぎるころになると少しずつ雨脚が弱まり、路面が乾いてきた。その状況になると、立川が履く ZENT CERUMO GR Supra のタイヤに対し、ライバルたちが大きくペースアップ。まず 26 周目には#23 Z GT500 が立川に接近すると、27 周目の 2 コーナーで先行を許してしまう。さらに翌周には、同じタイヤを履く#3 Z GT500 も急接近。ZENT CERUMO GR Supra は 3 番手に後退した。

立川はブリヂストン勢のトップを守っていたものの、今度は別のタイヤを履くライバルたちが近づいてきた。31 周目、ウェットタイヤがかなり苦しくなっていた立川は、#16 NSX-GT、#64 NSX-GT に先行を許してしまい、これで 5 番手。レースは 3 分の 1 を消化しており、チームはウェットタイヤの状況を見ながら、石浦宏明への交代を決断した。

33 周目、立川は ZENT CERUMO GR Supra をピットに戻し、タイヤ交換と給油、そして石浦への交代を行う。この頃には少しずつ雨脚が弱くなっていたが、まだまだスリックタイヤでは走れない状態。幸い石浦のペースは良く、前を走るライバルたちをパス。2 周に 1 台ほどのペースでポジションを上げていった。

石浦は 42 周目には 3 番手にポジションを戻すが、この頃には路面がかなり乾



TGR TEAM ZENT CERUMO

きはじめ、GT300 クラスのなかではスリックタイヤを履くマシンが現れる。タイヤに熱が入ってからはウェットよりもペースが良くなり、TGR TEAM ZENT CERUMO もスリックへの交換を検討。51 周目には石浦を呼び戻し、スリックへ交換した。



ピットアウト後、ZENT CERUMO GR Supra は4 番手につけることになるが、わずかに濡れた路面ではトップ3 のペースが速い。石浦は GT300 車両をかわしながら表彰台圏内を追ったが、64 周目には4 コーナーで GT300 車両とヒット。右フロントのカウルを痛めてしまった。

ただその後はダメージの影響はなく、石浦はふたたび雨が舞いはじめた路面にもしっかりと対応すると、84 週のレースを走り切りチェッカーを受けた。予選2 番手から、決勝結果は4 位。序盤トップを走っただけに表彰台に届かなかったのは悔しいところではあるが、何よりチームにとって欲しかった完走、ポイント獲得、そして上位争いという結果をようやく成し遂げることができた。チームはこの結果にまずは安堵の表情をみせたが、これをきっかけにさらなる浮上を目指していく。

ドライバー／立川祐路

「昨日からクルマは変えていませんし、ウォームアップからフィーリングは良かったです。決勝に向けて手ごたえを感じて挑みました。1 周目はボールの車両がタイヤをあまり温めていなかったもので、とっさに動いた感じです。軽い接触はありましたが、抜けて良かったです。ドライコンディションでペースも良く、序盤で何かあっても大丈夫なくらいにリードを築いておこうと思っていましたが、雨が降るまでは思ったとおりの流れでした。その後少し濡れた状態でのドライタイヤは得意なので良かったのですが、思いのほか降ってきてしまって。完全に濡れたときにはまだ良かったものの、水が減ってきたら厳しくなってしまう



ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

JOHN
JMS

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAGUCHI

TGR TEAM ZENT CERUMO

ましたね。今日は気持ちとしては絶対に勝つという強い思いでしたが、残念ながらそうはなりませんでしたが。しかしチーム全員が的確に判断し、ミスなく最後まで仕事のできたので、その点は良かったです。今日のレースは、このコンディションだったら何度やっても4位だったと思います。それくらい戦いけることはできた。今日は僕たちの番ではなかったということです。次にチャンスがきたときに、しっかりものにできるようにしたいですね」

ドライバー／石浦宏明

「当初の予想とは異なり、立川選手のスティントから雨が降り出すことになってしまいました。ウェットタイヤを履いたので少し引っ張るのかな…と思っていたのですが、状況が変わってきてしまいました。一度は雨が止む方向かと思っていたのですが、これは様子を見と思っていたら雨が強くなったので、僕に交代するときはウェットタイヤに交換しました。その後はペースも良く、オーバーテイクもできたのですが、雨が止み始めるとこれだけの台数が走っているのですぐに乾いてしまって、その後はドライに替えることになりました。今回のレースは自分たちが持っているもののなかではタイミングなども含めてミスはなかったと思いますし、ピットもしっかり送り出してくれました。全員がミスなく終えた結果が4位でしたが、自分たちのベストは出せたと思います。予選から含めて力強い、速さがある上位でのレースができたと思います。今季噛み合わないレースが続いていましたが、これをきっかけにファンの皆さんの期待に応えられるようなレースを続けていけば、結果は出ると思っています」



田中耕太郎監督

「チームとしてはあれ以上はやりようはありませんでしたが、三度もピットに入るとは思いませんでしたが（笑）、なんのミスもなく走りきることができたと思います。同じメーカーのタイヤを使うチームのなかではトップでしたし、結果については他メーカーさんのタイヤが非常に速かったということに尽きます。とはいえ、今回しっかりと走り切ったことで“失敗の連鎖”を断ち切ることができたと思いますので、今の調子をキープして今後につなげていきたいですね。結果



TGR TEAM ZENT CERUMO

についてはタイヤメーカーも、自動車メーカーも競争しているので、そのなかで良い戦いができればと思っています」



ZENT

GR TOYOTA GAZOO Racing

BRIDGESTONE

PMU RACING PADS

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

Amis

トヨタ東大

SHOWA BRAKE FLUID

YAMAHA

TGR TEAM ZENT CERUMO

決勝結果

Rank	Car No.	CarName	Lap	Diff
1	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	84	
2	23	MOTUL AUTECH Z	84	9.114
3	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	84	46.720
4	38	ZENT CERUMO GR Supra	84	1'05.148
5	12	CALSONIC IMPUL Z	83	1Lap
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	83	1Lap
7	64	Modulo NSX-GT	83	1Lap
8	100	STANLEY NSX-GT	83	1Lap
9	37	KeePer TOM'S GR Supra	83	1Lap
※ 10	36	au TOM'S GR Supra	83	1Lap
11	14	ENEOS X PRIME GR Supra	82	2Laps
12	17	Astemo NSX-GT	82	2Laps
13	8	ARTA NSX-GT	82	2Laps
14	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	81	3Laps
15	19	WedsSport ADVAN GR Supra	80	4Laps

※CarNo.36 G.Alesi 競技結果に対して 40 秒加算「黄旗区間の追い越し」

※CarNo.36 G.Alesi 競技結果に対して 40 秒加算「黄旗区間の追い越し」



TGR TEAM ZENT CERUMO

ポイントランキング

Rank	Car No.	CarName	Point
1	3	CRAFTSPORTS MOTUL Z	54
2	12	CALSONIC IMPUL Z	50.5
3	23	MOTUL AUTECH Z	37
4	37	KeePer TOM'S GR Supra	36
5	17	Astemo NSX-GT	34
6	39	DENSO KOBELCO SARD GR Supra	32
7	14	ENEOS X PRIME GR Supra	30
8	100	STANLEY NSX-GT	26
9	36	au TOM'S GR Supra	24.5
10	8	ARTA NSX-GT	21
11	24	REALIZE CORPORATION ADVAN Z	18.5
12	19	WedsSport ADVAN GR Supra	18.5
13	16	Red Bull MOTUL MUGEN NSX-GT	16.5
14	38	ZENT CERUMO GR Supra	16
15	64	Modulo NSX-GT	4

ZENT

GR TOYOTA
GAZOO
Racing

BRIDGESTONE

PMU
RACING PADS

ADVICS

HERSHEL

WAKOS

asics

YAMAHA

トヨタ東自大

SHOWA
BRAKE FLUID

YAMAHA